

令和 6 年度第 2 回審査会での質問と回答（技術指針、解説書改定案）

	質問、意見の概要		事務局の回答	修正案
1	騒音	99※ページの道路交通騒音の予測式で、音響学会式の ASJ RTN Model は、概ね 5 年ごとに定期的に改定されるので、年度を外した方がいいのではないかと思います。	ASJ Model については、2023 という数字を消すのはいいかと思います。 植物、動物に関するレッドデータブックなどは、数字を消せるものと消せないものがあるかと思えますので、それを整理した上で担当部局に確認しながら決めていきたいと思えます。	「ASJ RTN Model 2023」→「ASJ RTN Model」 ※レッドデータブック等は数字を残すこととして、最新版を記載します。
2	地盤	167 ページの地盤の(3)調査方法の表の一番下に、最新名古屋地盤図と名古屋地域地質断面図表解説が地形・地質の状況の例として書かれていますが、2 冊ともすでに絶版になっているので、閲覧することが難しい状況です。この図書に書かれている内容がデータベースにまとめられており、公表されているものがあるので、この 2 つの図書は載せない方がいいかなと思います。	こちらに掲載されている図書は削除して、新たに載せられるデータベースなどがあれば、資料名として記載します。 【会議後の追記】 この 2 冊は地盤図の基礎資料であるため、資料例としてこのまま残し、『国土地盤情報データベース（一般財団法人国土地盤情報センター）』を新たに追加します。	・最新名古屋地盤図（社団法人土質工学会中部支部編著） ・名古屋地域地質断面図表解説（社団法人土質工学会中部支部編著） ↓ ・国土地盤情報データベース（一般財団法人国土地盤情報センター） ・最新名古屋地盤図（社団法人土質工学会中部支部編著） ・名古屋地域地質断面図表解説（社団法人土質工学会中部支部編著）
3	地形・地質	182※ページの地域防災計画を削除した理由と、新たに特定盛土等規制法を記載した理由は、全く独立した話ということでしょうか。	地域防災計画は環境保全の記載がないので削除するのですが、盛土規制法は、熱海の土砂崩れを契機に改正されて、盛土する土などが土壌汚染されていないかとか、廃棄物で埋め立てていないかなど、環境保全的な観点からチェックするという機能も加わったので、今回ここに記載させてもらったという趣旨です。	—

※ページ数は資料 4-2 のページ番号に合わせて修正しています。

○メールでいただいた意見

	質問、意見の概要		事務局の回答	修正案
4	騒音	103 ページの道路交通騒音対策ですが、これまで一般的に書かれていた内容が削除・修正された理由は何でしょうか。なかでも、モーダルシフトの推進は残しておいた方がいいと思いますが、環境影響評価としては対象にならないということでしょうか。	今回の改定にあたっては、「第3次なごや自動車環境対策アクションプラン」に沿って修正しています。モーダルシフトについては、アクションプランの中で、交通量対策 - 物資輸送の合理化の施策の一つとして引き続き記載されています。	—
5		101 ページ「ア 道路交通騒音」の表で L_A , L_w の単位 $[dB(A)]$ ですが、ASJ RTN Model 2023 の解説論文では $[dB]$ となっています。「 dB または $dB(A)$ 」としてはどうでしょうか。	dB に修正します。	$[dB(A)] \rightarrow [dB]$
6	大気質・温室効果ガス等・ヒートアイランド	「低公害・低燃費車」を「電動車」に置き換えている部分と「低公害車」を「低公害・低燃費車」に置き換えている部分があるので、表記を統一すべきだと思います。	供用開始後の環境保全措置においては、「低公害・低燃費車」よりも環境負荷の少ない自動車の導入に努めることができると考え、供用開始後の影響の軽減に関する箇所は「電動車」という表記に修正して資料にお示しました。 しかし、「低公害・低燃費車」と「電動車」の表記が混在してわかりにくく、電動車に限らず事業者ができる範囲で環境負荷の少ない自動車の使用に努めていただくことが重要であることから、環境性能の優れた自動車についての表記は、すべて「低公害・低燃費車」という表記に統一したいと考えます。	「電動車」 →「低公害・低燃費車」